

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和6年度)

施 設 の 名 称	宮城県岩出山牧場
指 定 管 理 者 の 名 称	公益社団法人みやぎ農業振興公社
施 設 所 管 部 課 (室)	農政部畜産課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
～ 平成18年3月	管理委託	社団法人宮城県農業公社	
平成18年4月 ～ 平成21年3月	指定管理者	社団法人宮城県農業公社	
平成21年4月 ～ 平成26年3月	指定管理者	公益社団法人みやぎ農業振興公社	
平成26年4月 ～ 平成31年3月	指定管理者	公益社団法人みやぎ農業振興公社	
平成31年4月 ～ 令和 6年3月	指定管理者	公益社団法人みやぎ農業振興公社	
令和6年4月 ～ 令和11年3月	指定管理者	公益社団法人みやぎ農業振興公社	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益社団法人 みやぎ農業振興公社
	所在地	仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
指 定 期 間	令和6年4月1日 ～ 令和11年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	☐ 公募 ☒ 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県岩出山牧場		
所 在 地	宮城県大崎市岩出山、加美郡加美町		
設 置 年 月	昭和46年5月		
根 拠 条 例 等	公共育成牧場条例(昭和46年条例第19号)		
設 置 目 的	県有牛の飼養管理、肉用牛集団育種推進事業における産肉能力検定事業、乳用牛及び肉用牛の預託育成事業		
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	1,411,921.95㎡	
	構 造	放牧地、植林地、事務所・畜舎等の建物28棟、工作物 ほか	
	内 容	・放牧地:約813,000 ㎡ ・建物敷地:約30,000 ㎡ ・その他(植林地等):約569,000 ㎡ ・主たる建物(事務所1棟、事業用建物その他15棟、宿舍1棟) ・工作物 サイロ3基(タワー2基、バンカー1基)	
開 館 (所) 日			
開 館 (所) 時 間	午前 時 分 ～ 午後 時 分		
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 施設全体の管理運営業務 施設全体の運営マネジメント業務、施設の総務・経理業務、施設・機械・設備の維持管理業務(除草、除雪等含む)、草地管理業務、衛生・防疫管理業務(環境整備等含む)ほか 2 事業実施に関する業務 (1)預託事業(施設の使用許可、預託牛募集に関する業務、預託牛の飼養管理業務等) (2)県有牛飼養管理業務 (3)種付業務(県有牛への種付業務、預託牛への種付業務、人工授精用精液の管理等) (4)検定業務(直接検定)		
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	■ 有 □ 無	
	利 用 料 金 の 名 称	牧場使用料、人工授精料、除角料	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	365 日	365 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	80 人	53 人	98 人	122.5%	184.9%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
預託利用	30 人	51 人	32 人	106.7%	62.7%
実習(宮城県農業大学校)等	20 人	32 人	18 人	90.0%	56.3%
施設見学・視察等	30 人	0 人	48 人	160.0%	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	80 人	83 人	98 人	122.5%	118.1%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
県指定管理料	93,338	84,069	93,338	100.0%	111.0%
利用料金収入	5,594	4,847	3,385	60.5%	69.8%
その他	170	421	488	287.1%	115.9%
収 入 計 (a)	99,102	89,337	97,211	98.1%	108.8%

(2) 支出

人件費	42,946	42,399	44,064	102.6%	103.9%
施設管理費	7,624	7,060	7,310	95.9%	103.5%
事業運営費	58,750	50,704	55,505	94.5%	109.5%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支 出 計 (b)	109,320	100,163	106,879	97.8%	106.7%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	-10,218	-10,826	-9,668	94.6%	89.3%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

(別掲)

自主事業収支実績

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
県指定管理料				#DIV/0!	#DIV/0!
利用料金収入	3,995	4,506	4,097	102.6%	90.9%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
収 入 計 (a)	3,995	4,506	4,097	102.6%	90.9%

(2) 支出

人件費	1,800	1,800	1,800	100.0%	100.0%
施設管理費		140	143	#DIV/0!	102.1%
事業運営費	1,475	1,168	984	66.7%	84.2%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支 出 計 (b)	3,275	3,108	2,927	89.4%	94.2%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	720	1,398	1,170	162.5%	83.7%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

6. 評価対象年度(令和6年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主 な 視 点	項 目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
				評価		評価	
経 済 性	施設・設備の維持管理業務の実施	施設の簡易的な修繕 畜舎および周辺の環境整備、衛生対策の実施 機械の定期点検および運行前点検の実施 消防設備点検の実施		施設、機械等の老朽化が進む中、各設備の状況の把握と使用前点検、および定期点検を行い、適正に維持管理することができた。		A	A
	収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり		資材・飼料費高騰の中、自給飼料生産に力を入れるなどできる限りの経費の削減に努めたことなどにより、支出は計画に対して実績がやや下回ったが、収支実績はマイナスであった。		B	B
効 率 性	管理運営体制	牧場全体の管理運営に必要な人員の確保 職員の資質・能力の向上を図るための研修等に参加 ・中央畜産技術研修会 ・畜産経営担い手育成に係わる研修会 ・畜産経営技術高度化促進事業に係わる経営者セミナー		飼養管理および施設の維持管理を効率的かつ適切に行うための人員を確保し、適正な配置を行った。また、5力年の指定管理計画に基づき若手職員の育成及び技術の向上に努めた。		A	A
	人員体制	正規	2 人	非正規	7 人		
	運營業務(ソフト事業等)の実施	肉用牛繁殖育成事業の実施(40頭配布) 和牛産肉能力直接検定事業の実施(17頭検定) 肥育事業実施(15頭販売) 預託事業の実施(前期45頭後期42頭) 草地管理の実施(収量279.6t)		事業推進にあたっては、家畜保健衛生所、畜産試験場、獣医師の指導のもと、衛生、防疫の管理を徹底した。また、日常から職員間で情報を共有し、早期発見、早期治療に努め、効率的に飼養管理を行った。		A	A
有 効 性	利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり		利用農家が畜産を廃業することで利用頭数は減少傾向にあるが、預託事業の周知に努めたことで、新規の利用者を2戸2頭確保した。今後も効果的な周知に継続して取り組む。		B	B
	利用者サービスの向上	預託牛募集リーフレットの配布及びHP掲載による周知 農業者研修施設(県農大)学生作業実習の実施 来訪者に対しての対応徹底		研修者、預託者、直検牛飼養者、来訪者などへの場内案内を行い、また電話での問い合わせにも丁寧に対応した。		A	A
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用農家へのアンケートを実施 預託利用料金に関係する意見があったが、現状は対応困難で、今後検討したい。		預託事業利用農家からアンケートをとり要望等の把握に努めたが、「利用料金」は概ねが「妥当」、「次年度の預託利用」についても多くが「希望する」との回答であり良好であった。		A	A
そ の 他	県民の平等利用	県内全域を対象にした預託事業を行った。公社ホームページや市場上場時のパンフレット配布などで広く周知を行い、県民の平等利用に努めた。		施設の利用について広く周知するとともに、牧場案内、預託事業などの利用希望者に対して、家畜飼養衛生管理にも留意しながら、可能な限り利用していただけるように努めた。		A	A
	安全対策	作業管理マニュアルの徹底 安全衛生大会の参加		作業管理マニュアルを作成し、安全対策を徹底した上での飼養管理に努めた。また公社主催の安全衛生大会に出席し職員の意識を高めることができた。		A	A

主な視点	項 目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価	
その他	個人情報の保護	取扱の書類は利用目的以外に使用しない旨、利用農家へ公表 個人情報記載されている書類は金庫にて保管 個人情報の漏洩を防ぐためファイルにパスワードを設定	個人情報保護法に基づき個人情報の適正な管理を行った。		A	預託者の個人情報は、事務担当者のみが閲覧可能であり、必要に応じて、事務担当者から場長または預託管理者に情報を部分提供するといった対応を行っており、預託者情報等の個人情報管理は、適切に実施されていると認められる。
	自主事業の実施	周年預託事業の実施(11月～3月)	農家からの「非放牧期間(11月～4月)」に係る預託希望に応えるため、周年で預託牛の受け入れを実施した。		A	利用農家の廃業に伴い、利用頭数も減少したが、県事業の農家巡回の際に常同して農家や農協へ積極的に周知を行うなどの取組により、新規の利用者を獲得した点については評価できる。引き続き利用が増えるよう努められたい。
	その他の取組	環境配慮の取組の徹底。	環境配慮の取組を積極的に行った。		A	環境に配慮した再利用や節減の取組は、高く評価できる。
総 合 評 価			施設の整備・維持管理、預託牛・県有牛の飼養管理、および検定事業の実施などを適正に行うことができた。		A	施設設備等の維持管理、預託牛の飼養管理及び利用料金制に係る経理事務、県有牛の飼養管理及び検定業務等、多岐に渡る業務をその高度・専門的技能により適切に実施されていたと認められる。

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評 価	評 価 の 考 え 方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評 価	評 価 の 考 え 方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	・資材・飼料価格の高騰が継続することなどにより5カ年の事業計画の想定を超える厳しい管理運営を余儀なくされている。 ・厳しい物価高騰に対応するための効率的な資材購入と直営による器材作成及び施設補修施工さらには高度な草地管理が求められている。また、近年の気候の変動などに伴いこれまでに比べ飼養管理が難しくなっている。これらため職員の負担が大きくなっており、今後適正な飼養管理を行うために管理体制(宿直など)について再考の必要があると考ええる。	・適切な草地更新や雑草防除による粗飼料の増産により、購入飼料費の低減など経費削減に努める必要がある。 ・施設・機械の老朽化に伴う計画的な更新・修繕が必要である。 ・気候変動により家畜の体調管理が難しくなっていることや職員の負担軽減のため、家畜の事故や疾病対策の見直し及び改善により、さらに効率的な生産・飼養管理を目指す必要がある。